

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴う

宮崎科学技術館の対応と今後の感染症対策について

宮崎科学技術館
主任主事 井田 成海

宮崎科学技術館
主任主事 重久 佳穂

宮崎科学技術館
主事 内田 葵

【要 約】

新型コロナウイルス感染症の世界的大流行に伴い、宮崎科学技術館（以下、当館とする）でも様々な感染防止対策を行った。また、外出自粛が求められる中、自宅でも楽しめるオンラインコンテンツにも力を注いだ。

本研究では、新型コロナウイルス感染症に対する当館の対応や取組を整理し、記録する。また、他館の取組についても調査し比較する。これにより、今後、起こり得る緊急時に、迅速かつ正確に対応できるよう役立たせたい。

はじめに

2020年、世界中で猛威を振るう新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、全国各地の施設が臨時休館を余儀なくされた。当館も例外ではなく、3度にわたって臨時休館の措置を取った。このような社会状況下で、今後も感染防止対策を講じながら、最善のサービスを提供することが求められる。

本研究において、臨時休館中の当館の取組や、再開館から現在に至るまでの感染防止対策を振り返り、整理することで、今後、同様の状況に陥った際に、迅速に対応できるのではないかと考えた。

また、他館の取組についても調査し、様々な制限がある中でのサービスについて思索することで、当館でのよりよいサービスの提供、事業の質の向上につなげたいと考える。

第1章 感染症対策への対応と取組

第1節 コロナ禍における当館の対応

2020年1月に国内初の新型コロナウイルス感染者が発表された。表1は、現在（2021年1月）に至るまでの、国や県のガイドライン下での当館全体の対応について時系列で整理したものである。

表1 新型コロナウイルスをめぐる主な動きと当館全体の対応

	新型コロナウイルスをめぐる主な動き	当館全体の対応
2020年1月16日	国内初の感染者が発表された	
2020年2月27日	国が全国の小中学校に臨時休校を要請した	3月1日よりイベントの自粛 3月4日よりプラネタリウムの投映中止
2020年3月4日	宮崎県内初の感染者が発表された	
2020年4月7日	感染拡大7都府県に「緊急事態宣言」が発令された	同日より臨時休館
2020年4月16日	「緊急事態宣言」が全国に拡大した	
2020年5月14日	「緊急事態宣言」が39県で解除された (宮崎県含む)	5月19日より開館 ※プラネタリウムは6月2日より再開
2020年7月25日	当館職員の感染発表	同日より2度目の臨時休館 お客様への電話連絡、館内消毒後、職員は8月7日まで 自宅待機 →8月18日より開館
2021年1月9日	宮崎県独自の「緊急事態宣言」が発令された	同日より3度目の臨時休館

第2節 各セクションの対応と取組

1. 総務課の対応と取組

(1) インフォメーション

- ① お客様同士の接触を避けるため、入口・出口を分ける等の動線管理
- ② 入場時の検温実施 (37.5℃以上の方は、入場をお控えいただく)
- ③ 職員とお客様の接触を避けるため、カウンターにアクリル板を設置。金銭やチケットの受け渡しはトレイ上で行う
- ④ マスク着用やソーシャルディスタンスの確保、手指消毒の励行を呼びかけや掲示等で実施
- ⑤ 万が一、当館で新型コロナウイルス感染が発生した場合に備え、連絡先シート記入の依頼

写真1 検温及び消毒



写真2 体調チェック及び連絡先記入

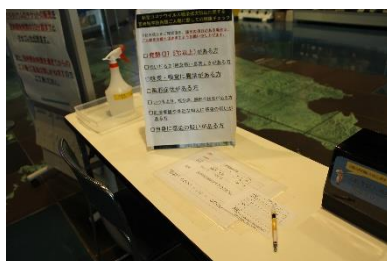


写真3 インフォメーションカウンターのアクリル板及び受け渡しトレイ



(2) 団体予約

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、展示室やプラネタリウムの入場制限を行った。これに伴い、既に予約を受け付けていた団体に対し、利用を断らなければならない事態が生じた。予約順位を考慮しながら、速やかに該当団体へ連絡を行った。

(3) 友の会

当館の年間パスポートである「友の会」については、臨時休館の期間に応じ、有効期限延長の対応を取った。なお、新型コロナウイルス感染症収束の目途が立たず、展示室やプラネタリウムの利用制限が続くことが予想されるため、現在（2021年1月）まで「友の会」の更新及び新規申込の受付を中止している。

(4) 職員の健康管理

2020年7月、当館職員の新型コロナウイルス感染を受け、職員についても検温の実施と健康管理に努めた。毎日の体温記入と、体調チェック欄を設けた健康管理シートを全職員に配布。また、職員のマスク着用や手洗い、うがい、手指消毒の徹底にも取り組んだ。

2. 業務課・インストラクターの対応と取組

(1) 展示室

不特定多数が触れる展示物は、インストラクターが随時アルコール消毒液での拭き上げを行った。また、密閉空間になる「3Dプラネットシアター」や「コスモベース」は、一度の入室を家族やグループ間のみにする等の人数制限を実施。利用後の消毒も徹底しながら運営した。人数管理のできない「遊びのトンネル」や「シャトルタワー」については利用を中止とした。

(2) イベント

イベント実施会場ごと（多目的ホール・工作室・実験室）に人数制限を設けた。イベント開催時は、会場入口に消毒液を設置。入場するお客様に対し、手指消毒の協力をお願いした。また、サイエンスショーはお客様と対面形式で行うため、マスクやフェイスシールドを着用したうえで、お客様への問いかけを減らす等、飛沫感染を防ぐ工夫を凝らした。これまでチケット制で開催していたイベントについては、万が一、新型コロナウイルスの影響により開催中止となった場合の払い戻しリスクを回避するため、整理券を配布し、当日支払いへと切り替えた。

写真4 利用中止の展示物



3. 業務課・プラネタリウムの対応と取組

(1) プラネタリウム一般投映

- ① お客様同士の接触を避けるため、入口・出口、階段の上り・下りを分ける等の動線管理とソーシャルディスタンスの確保
- ② 職員とお客様の接触を避けるため、カウンターにアクリル板を設置。整理券や月刊誌の受け渡しはカウンター上で行う
- ③ 入退場時の手指消毒、手洗い・うがいの協力依頼
- ④ 国や県が提示する「外出自粛や休業要請等の段階的緩和の目安」に合わせて、プラネタリウムホールの入場制限を実施。そのうえで、ソーシャルディスタンスを確保するため、座席間隔をあけて運営
- ⑤ 換気の必要性から、投映回数は基本的に1日3回（①11:00～、②13:30～、③15:30～）とした。団体向けの学習投映を行う場合は、開始時刻を9:00～とし、投映間に1時間の換気時間を確保
- ⑥ 終演後の座席を含むホール内の拭き上げ

(2) イベント

全国緊急事態宣言解除後のイベントに関しては、開催時間の変更や、人数制限、マスク着用や手指消毒の協力等、感染対策を行いながら実施した。これまでチケット制で開催していたイベントについては、万が一、新型コロナウイルスの影響により開催中止となった場合の払い戻しリスクを回避するため、ホームページフォームを活用した予約制とし、当日支払いへと切り替えた。

また、市民向けに行ってきた館外での観望会は、人数管理が難しく、感染対策が不十分になる危険性があることから開催を断念したものもある。しかしながら、コロナ禍でも、自宅で星空や天文現象を楽しんでいただけるよう SNS を利用したオンライン配信に取り組んだ。予てから情報発信に活用していた Facebook や Twitter、YouTube に加え、現在、主に若年層を中心に普及する Instagram のアカウントを新たに開設。より幅広い年代の利用者への情報発信を目指した。

4. その他の取組

- ① 館内での食事はご遠慮いただく（休憩コーナーでの水分補給は可能）
- ② 館内冷水機の使用中止（自動販売機は利用可能）
- ③ 定期的な館内放送で、手洗い・うがい、手指消毒の徹底を呼びかけ
- ④ 取引先及び関係者の連絡先記入（感染経路把握のため）

写真5 休憩コーナーの様子



第2章 他館の取組とこれから

第1節 他館の取組調査

ここでは、公益財団法人日本博物館協会が2020年9月1日～15日に実施した「新型コロナウイルス感染予防の対応状況に係る緊急アンケート（回答数：709館）」をもとに、他館の対応と取組について大きく3つに分けて示す。

1. 入館時の対応

お客様入館時の対応としては、当館と同様に検温の実施や、マスク着用の義務・推奨に取り組む施設が多い。そのような中、当館とは異なる対応として特筆すべき点が2つある。1つ目は、事前予約制の導入である。これを取り入れた施設（検討中も含む）はおおよそ150館で、全体の20%を占める。事前予約制とすることで、館内の人数管理がしやすくなり、当日の連絡先記入の必要もなくなる。2つ目は、入場券のキャッシュレス化である。導入した施設（検討中も含む）はおおよそ280館あり、全体の40%を占める。職員とお客様との接触を減らすことができ、より安全にご利用いただけるだけでなく、人員も減らすことができるため、その分、消毒等に人手を割くことができる。さらに、時差勤務や時短勤務、在宅勤務など、職員の感染防止に対応した勤務や業務体制の実施にもつながるのではないかと考える。

2. 施設内の対応

施設内における来場者の「3密」回避策として、ソーシャルディスタンスの表示や、職員による呼びかけは、ほとんどの施設で実施している。その他、施設内一方通行規制や、ゴム手袋の配布、展示

室内の会話禁止や、立ち止まって見学する際のフットプリントシールの貼り付け等、当館と比較すると厳しく「3密」回避策に取り組む施設もあるようだ。

また、感染対策の表示について、興味深い取組もあった。岡山県の倉敷科学センターでは、ソーシャルディスタンスの目安として、「はやぶさ2一基分」「アフリカゾウの耳の幅」等、自然科学の知識を利用している。“禁止”“中止”というネガティブな言葉があちこちで並ぶ中、ポジティブな印象を与え、お客様の関心を得られる表示である。

3. 休館中の取組

休館中は、多くの施設で中止となったイベントへの対応や、開館後のイベント準備、展示室等の環境整備に取り組んだようである。また、500を超える施設が、WEB等によるオンラインコンテンツの発信を実施している。学芸員による展示解説動画、VRを使った展示室紹介、SNSでのプラネタリウムや実験動画のリレー等、自宅でも楽しめる「おうちミュージアム」や「バーチャル博物館」という形で、各施設がオンラインで“今できること”を発信した。使用したメディアの種類については、各施設のホームページが一番多く、次いで、Twitter、Facebook、YouTube、Instagramの順となった。

科学館業界で比較的早くSNSに取り組んだ施設の1つに大阪市立科学館がある。特にTwitterを利用した情報発信が興味深い。広報用だけでなく、学芸員の共有アカウントを持ち、館長を含む学芸員が科学にまつわる様々な話を投稿している。コロナ禍においては、オンラインによる情報発信を強化し、「#エア科学館」「#エア大阪市立科学館」のハッシュタグをつけて科学を楽しむコンテンツを発信している。特に、紫キャベツを和えた焼きそばがカラフルに変化する動画は、10万回再生を超え、フォロワー数も3000人程増えている。また、他施設との連携企画「星空の連帯」も行っている。決まった日時に、同時に星を観察し、「#星空の連帯」のハッシュタグで一斉につぶやこうというもので、Twitterの“トレンド”にも入る取組であった。なお、これらの投稿に際し、館としての文面チェックは行っていないようだ。気軽に、そしてリアルタイムに情報を発信できると考える。

第2節 これからの感染症対策

前節で他施設の様々な取組を知り、当館と比較することができた。それぞれの地域での感染状況にもよるが、当館の取組は比較的緩やかな方である。機械等の導入には時間を要するものもあるかもしれないが、県内の感染状況等によっては、即座に対応できる準備も必要であるように感じる。例えば、ゴム手袋の配布や、飛沫が心配される「パラボラアンテナ」や「伝声管」等の展示物には、除菌シートの設置も有効と考える。

また、コロナ禍での対策、取組が科学館としての存在意義を高める機会であるようにも感じる。前節で述べた倉敷科学センターでの取組を参考に当館プラネタリウムでも、ポジティブワードによる座席の制限を行っている。利用可能な座席の目印になり、かつ、星についてのクイズも楽しめるものだ。着席後、多くのお客様が関心を持って表示を見ている様子が伺えた。また、団体（特に小学校）の引率者にも好評で、子ども達に表示を用いながら説明する姿を何度か目にした。さらに、オンラインによる情報発信も、教育普及という面で、科学館の価値が発揮できるチャンスである。これらの取組を継続し、進化させることが、これからの感染症対策として求められると考える。

写真6 プラネタリウムホールの様子



写真7 座席表示



おわりに

本研究で、新型コロナウイルス感染症に対する当館の動きを振り返るとともに、他施設の取組についても調査できた。感染症の収束が見通せない状況であっても、対策を徹底して行うことで、お客様に安心してご利用いただける館づくりをこれからも続けていかなければならない。

また、“地元の科学館”としての役割も担っていかなければならない。遠出自粛や外出自粛が求められる中、“地元の科学館”が情報発信を行い、興味深く、楽しい時間が過ごせる場所にならなければいけないと感じる。

以前のような来館者数に戻すまでには時間がかかるであろう。しかしながら、徹底した感染対策と科学館としての価値ある情報発信を続けることが、来館するまでの一歩につながると考える。これからも職員、協会が一体となって取り組んでいきたい。

引用文献・参考文献・参考資料リスト

- 1) 全国科学博物館協議会, 『全科協 News』, vol.50 no.6, 2020, p.2-6
- 2) 「はやぶさ2」1基分空けて 倉敷科学センターがコロナ対策, 山陽新聞デジタル, 2020.06.24
<https://www.sanyonews.jp/article/1024243>
- 3) 『日本博物館協会』, <https://www.j-muse.or.jp/02program/pdf/covidquestion2020.pdf>
(参照日: 2021.01.12)